

塾生の皆様へ

岩波文庫（2017年7月14日刊）で源氏物語を読もう

開倫塾

塾長 林明夫

1. 中学校や、高校で源氏物語について学んだ人なら誰でも、いつかはきっと原文で読み通してみたいと考えるのではないかと思います。
2. そのような願いをかなえてくれるのが、7月14日に岩波書店から刊行された岩波文庫「源氏物語」第1巻（全9巻）だと思われます。
3. ではどのように読んだらよいのか。
4. 岩波文庫「源氏物語」第1巻には、源氏物語全54帖のうち、最初の「桐壺」「帚木（ははきぎ）」「空蟬（うつせみ）」「夕顔（ゆうがほ）」「若紫（わかむらさき）」「末摘花（すえつむはな）」の6帖と、校注者のお一人である藤井貞和先生による解説「源氏物語の世界」が掲載されています。
5. 私のおすすめの読み方は、まず、各帖の初めにある「梗概（こうがい）」をゆっくりと読み、その帖がどのような内容であるかを知ること。
6. 例えば、「源氏物語」冒頭の「桐壺」でしたら、岩波文庫12～13ページの梗概をよく読んで「桐壺」の内容を予め知ること。
7. そのうえで、14ページから72ページまでの「桐壺」をお読みになることをおすすめいたします。
8. 7月14日刊行の、この岩波文庫版の「源氏物語」は、本を開いて右ページ（偶数ページ）に「源氏物語」の「本文」が、左ページ（奇数ページ）に「本文」の「注釈」が掲載されています。
9. 「本文」は、読むとすぐにおわかりになりますが、これ以上わかりやすい、読みやすい「本文」はないと思われるほど、様々な工夫が施されています。例えば、漢字はすべて現在使用されている字体を使用し、必要に応じて「読み仮名」を付してあります。
10. 「本文」の「注釈」を掲載した左ページには、よくぞここまでと思われるほど、わかりやすく、親切このうえない「本文」の説明が示されています。
11. (1)まずは、「本文」をワンセンテンスずつ読む。

(2)次に、「本文」にある「数字」に従い、該当部分の「注釈」をゆっくりと読む。

(3)「注釈」を読み終えたら、最初に読んだ「本文」をもう一度ゆっくりと読み返す。

これなら、辞書をあまり引くことなく、名作の「源氏物語」を読み通すことができます。

12. 人間関係が込み入ってきたら、各帖の最終ページ、例えば「桐壺」でしたら 72 ページの「人物
 相関図」で確認する。
13. 巻末の、解説「源氏物語の世界」も何度か読み返すと、文字通り源氏物語の世界を堪能することが
 できます。
14. 読者の立場、とりわけ、初めて源氏物語に触れる読者の立場で作られた岩波文庫「源氏物語」で、
 古典に親しんでいただきたいと存じます。是非ご一読を。
15. 辞書では、これだけはどうしても意味が知りたいというもののみ、お調べになることをおすすめ
 します。
16. どうしてもという場合の辞書は何がよいか。古語辞典は、小西甚一著「基本古語辞典」大修館書
 店 2011 年 3 月 1 日刊をおすすめいたします。小西先生がお一人で、学習者のお立場で執筆なさっ
 た、名著といえる古語辞典です。長らく絶版になっていたものを、名著「古文の読解」と同様に、
 多くの方々の運動の結果、ようやく復刊していただいたものです。
17. 是非、岩波文庫「源氏物語」と、小西甚一著「基本古語辞典」をお手元に置いて、「源氏物語」
 にお親しみください。

よろしく願いいたします。

2017 年 7 月 29 日（土）5 時 40 分